

式 辞

暖かな、早春の日差しを受けて、校庭の草花も芽吹き始め、確かな春の訪れを感じる季節となりました。本日、創立四〇周年を迎えた記念すべき年に行われる第三八回卒業証書授与式にご列席いただきました保護者の皆様方のお喜びと感慨は、ひとしおのことと存じます。また、保護者と教員の会を代表して阿比留真樹子様には華を添えいただきましたことに、心からお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました八十五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日ここに九年間の義務教育を修了しました。その努力に心から拍手を送りたいと思います。

さて、令和という元号も言い慣れましたが、平成から令和へ元号が変わったのは、卒業生の皆さんが入学して直ぐの五月のことでした。しかしながら、元号が変わった令和元年は、まさに波瀾万丈の日々の始まりでした。その年の九月に上陸した台風一五号により千葉県は大きな被害を受けました。稲浜小学校では体育館の屋根が吹き飛び剥がれました。その時、卒業生の皆さんはボランティアとして、稲浜小学校の体育館の物品の運び出しを手伝いに行き、電子機器や体育の備品を守ることに尽力しました。その後、日本でも令和二年一月に国内第一例目の新型コロナウイルス感染者が確認され、当時の安倍首相が全国小中学校の一斉休校を決め、三月二日より実際に休校となりました。休校はその都度延長され分散登校をはさみ令和二年度の始まりは、実質的に6月となりました。史上最も遅い入学式が六月九日に行われ、新入生が入学してきて皆さんが晴れて中学校で先輩となったのは予定よりも二か月以上遅れてからのことでした。

学校が始まってからも新型コロナウイルス感染症の恐ろしさばかりが報道され「正しく恐れ慎重に行動すること」を求められ窮屈でストレスの溜まる学校生活を送ることとなりました。この時に生まれた「学校の新しい生活様式」との言葉に則り、「消毒・手洗・ソーシャルディスタンスの確保」そしてマスクの着用、感染防止対策のため授業でのグループ活動の禁止、給食時の会話禁止等今までにない精神的な負担を皆さんは強いられることとなりました。その後、市総休の中止や遅れた学習を取り戻すため夏休みは二週間に短縮され、楽しみにしていた体育祭や合唱コンクール等の諸行事が中止又は簡略化されました。

このように、今までになく耐え忍ばなければならぬ事を多く求められる中で、本当に良く学校生活に落ちて取り組んでくれました。その時の保護者の皆様のご心配と支援はいか程のことかとお察しいたします。

しかし、そのような学校生活の日々は決して無駄にはなってはいませんでした。その成果が発揮されたのは、3年生になった令和3年十一月に実施された

信州での修学旅行です。初日は経験のなさをまさしく露呈してしまったように時間を守れなかったり自分の役割を忘れてりと反省点の多い一日でした。その日の夜の実行委員会、班長会では大反省会が行われました。次の日には、行動が大きく変化し、実行委員、班長のリーダーを中心に協力して、自主的に活動する皆さんの活動ぶりが見られ「豊かな心を持ち、自ら正しく判断し、行動できる生徒の育成」という稲浜中学校の学校教育目標を具現化された生徒の姿がまさしくそこありました。二泊三日だから見る事が出来た皆さんの立派な成長ぶり。職員一同感心すると共に思い出深い修学旅行となりました。

先輩達とは違う道を歩んでも成長した卒業生の皆さん。背中で後輩達に、「どんな困難が目の前に迫ってきたとしても前に進めば必ず道は開ける。」そうお手本を示した稲浜中学校の最高学年の姿がそこにありました。

最後に卒業生の皆さんに、一つ伝えておきたいことがあります。新型コロナウイルス感染拡大は、私達にこれからの生活の中で更に良い生活を求めていくためには、これからは何をしなければいけないのかを考えさせてくれたのも事実です。

イギリスのノーベル文学賞受賞者・教育者であるジョージ・バーナード・ショーは、著書の中でこう言っています。

「大切なことは、自分で見つけ出すことではなく自分で創り出すこと」

この言葉には、これからは新型コロナウイルス感染拡大以前に戻る事だけが目的ではなく、今までに無い発想で新しいことを創造し、新しい世の中を目指すことが重要であるということをお教えたように思えます。ICTの急速な進歩や地球温暖化防止対策のための二酸化炭素削減を目指す世界中の取り組みは目覚ましいものがあります。SDGsは国、企業、個人でも取り組むことは必然となります。

今、人類は、何が大切で必要なのは何なのかを考え、創造力を発揮して災害が少なく平和な世界を築いていかなければなりません。誰もが自由で大切にされる世界、武力に頼る戦争などのない世界の実現をこれから共に考え、創造していきましょう。

終わりになりましたが、保護者の皆様にはお子様のご卒業を職員一同心よりお祝いを申し上げます。また、これまでの三年間、絶えず本校の教育へご理解とご支援を寄せていただきましたことに深く感謝申し上げます。稲浜中学校での3年間が卒業する生徒達のこれからの人生の礎（いしずえ）となる事が出来たならば幸いです。

卒業生の皆さんのこれからの人生に幸あらんことを願い式辞といたします。

令和四年三月十一日

千葉県立稲浜中学校長 川崎 康範